



## 国土交通省 関東地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau.

平成31年4月24日(水)  
国土交通省 関東地方整備局  
利根川下流河川事務所

### 記者発表資料

**皇太子殿下即位記念 河川水運パネル展示を実施します。**

国土交通省では、皇太子殿下のご即位を記念して、殿下が日頃からご関心を持たれている河川水運について、歴史や取り組み等に関する展示を実施します。  
利根川下流河川事務所では、利根川の水運の歴史や現況及び関東地方での殿下の行啓状況等に関する展示を実施します。

### 展示場所及び期間

「水の郷さわら」(千葉県香取市、川の駅)  
(詳細は別紙参照)

#### 発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会  
千葉県政記者会・茨城県政記者クラブ

#### 問い合わせ先

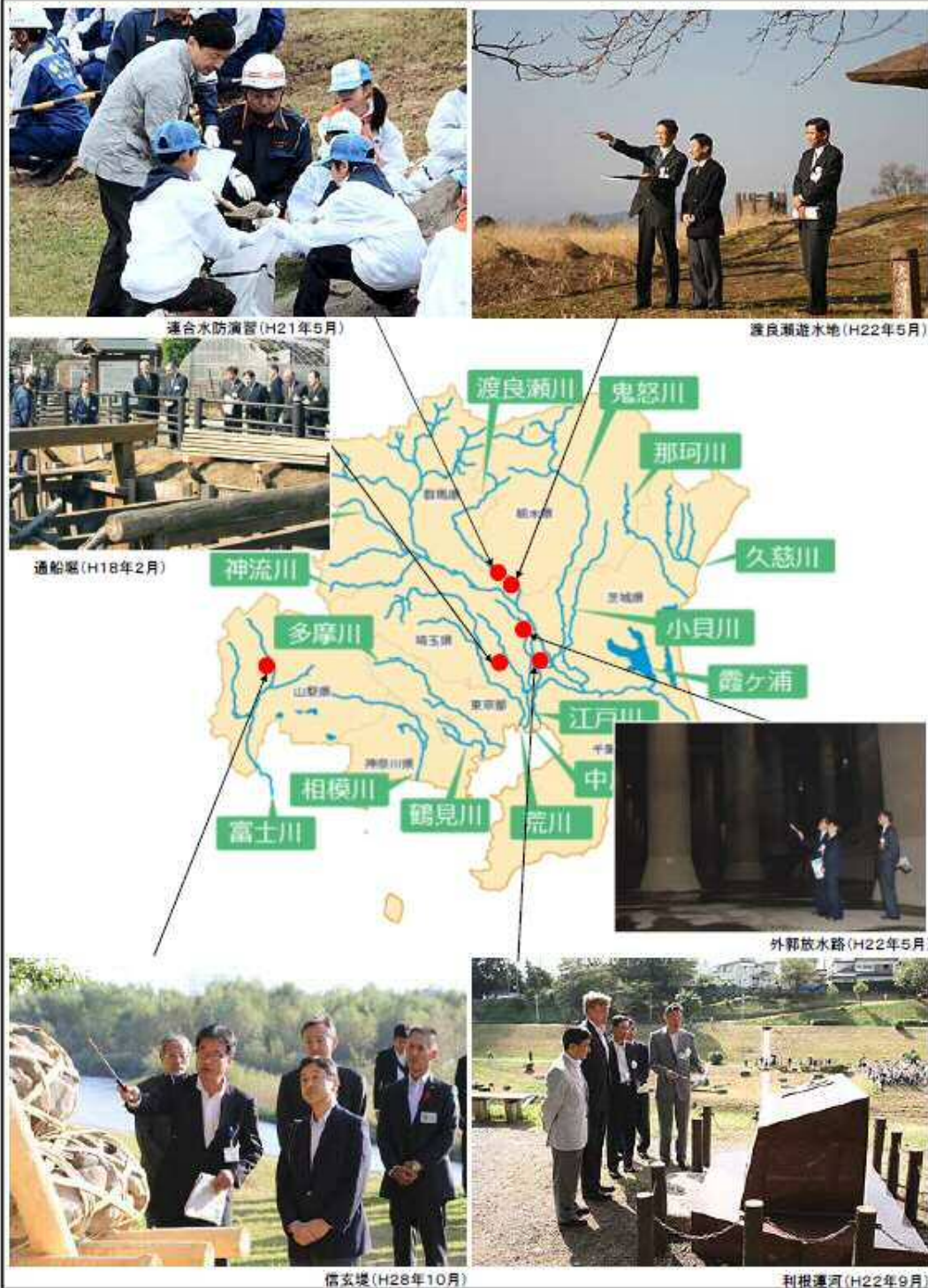
国土交通省 関東地方整備局 利根川下流河川事務所

副所長 井口 和夫(いぐち かずお) 電話 0478-52-6361(代表)  
地域防災調整官 勝俣 猛(かつまた たけし) FAX 0478-52-9720

# 皇太子殿下即位記念 河川水運パネル 掲示内容

## 関東地方での殿下の行啓状況のパネル展示

関東地方整備局管内における皇太子殿下下行啓状況



※写真は宮内庁HPより引用

# 皇太子殿下即位記念 河川水運パネル 掲示内容

## 河川水運の歴史等のパネル展示

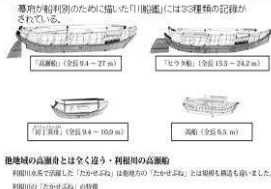
### 1①. 利根川の河川水運 ～江戸時代～

経済発展を支えた利根川の河川水運と陸路



河岸の位置

利根川の河川水運で活躍した船



河岸の(かし)とは、河川や運河、湖、沼の岸にできた港や船着場のことである。

年貢米の輸送や参勤交代制度、江戸城の普請などをきっかけとして江戸の人口が増加し、大量物資の輸送が必要となり、東廻り廻船、産運・樽廻船が発達した。当時の海運は、風まかせであったため多くの日数を要し、鹿島灘や房総沖などの難所も多く存在していた。

江戸時代、徳川幕府の東遷事業により、利根川水系を中心とする巨大な水路網を形成し、盛んに河川水運が行われ各河川沿川には舟を下ろす河岸が数多く設けられ、蔵や河岸問屋が建ち並び、賑わいをみせた。河岸の中には、工業的な発展をみせたところもある。銚子や野田の醤油の製造、流山のみりんの醸造、佐原の酒の醸造は、その代表的なものである。

### 1②. 利根川の河川水運 ～江戸時代～

利根川下流部の河川水運と三社詣



利根川流路の改修を契機に隆盛を見た河川水運により、江戸の庶民や文人の間で東国三社詣が流行し、1678年に始められた木下茶舟をはじめとして霞ヶ浦・下利根川沿岸の河岸から遊覧船が往来した。

東国三社とは、鹿島神宮(茨城県鹿嶋市)・香取神宮(香取市)・息栖神社(茨城県神栖市)のことをいう。もともとは、関東以北の人々が伊勢神宮参拝後にこれら三社を巡拝する慣習があった。平安時代から「神宮」と称されたのは、伊勢神宮・鹿島神宮・香取神宮のみで、現在はパワースポットとしても人気である。



### 2. 利根川の河川水運 ～明治以降～

東京～銚子 河川水運ルート図



江戸時代の利根川の河川水運は、大きな帆をばらまけて進む高瀬舟であった。明治時代になり、西洋技術が導入され、明治10年には外輪蒸気船「通運丸」が就航した。

明治23年(1890)には、利根運河が開通したことにより、東京への河川水運は従来と比較して航路、日程とも大幅に短縮できたり運賃も安くなり、明治24年(1891)には、年間3万艘(そう)以上の船が利根運河を渡った。

明治20年代前半まで荷物輸送の中で重要な地位を占めていた河川水運であるが、明治17年(1884)の高崎線、明治29年(1896)の土浦線(常磐線)をはじめとする鉄道の整備や道路の改良など陸上交通が発達し、河川水運は徐々に衰退していった。



### 3. 利根川の河川水運 ～現在～

渡船と橋梁



番号	橋梁名	橋長 (m)	架橋
1	銚子大橋	1,208	昭和37年
2	河口堰管理橋	884	昭和46年
3	小見川大橋	822	昭和48年
4	鹿島特種架	674	昭和45年
5	水郷大橋	595	昭和52年
6	神埼橋	535	昭和42年
7	常陸大橋	518	昭和54年
8	長豊橋	510	昭和43年
9	宇津橋	273	昭和46年
10	常磐特種架	976	【明治29年架設・昭和34年架設】昭和52年架設
11	大羽橋	1,209	昭和59年新設

利根川下流域において明治時代に90あった渡船場は、橋を利用した陸上交通の普及により数を減らした。

現在の利根川の河川水運



河川管理者である利根川下流河川事務所等が河川管理や水面の適正な活用を図るために船着場の整備を実施している。これらの船着場は、河川管理に支障がない範囲で一般の利用を認めている。

利用される船着場は、上記の9ヶ所である。なお、利用には利用ルールを守っていただくとともに、船着場の占有者である地元自治体等の許可を得てください。

利根川では現在定期的に運行している水運事業は「小郷の渡し」「いんざいふりめぐり」「小野川舟めぐり」の3事業がある。これ以外にも不定期で船船を運航している事業もある。

# 皇太子殿下即位記念 河川水運パネル 展示場所案内

展示箇所:「水の郷さわら」(川の駅)千葉県香取市佐原イ4051番地3  
展示期間:平成31年4月27日から5月6日まで



水の郷さわらホームページより  
<http://www.e-sawara.com/>